

令和3年度 学校評価 学校関係者評価) 令和4年3月10日

学校経営ビジョン			学校関係者評価のポイント					
校訓「理想」「優雅」「自主自律」の下、生徒一人一人に親身に寄り添い、互いを認め合い高め合う校風の醸成に努め、 ① 確かな学力と変動する社会に対応できる資質・能力、教養と品格を身につけさせ、社会に貢献する気概を育む学校 ② 生徒の主体的な挑戦・試行錯誤の場を保障し支援することで、自信と誇りを持たせ、自己肯定感と人間力を育む学校 ③ 生徒の能力・適性を生かした進路を実現させ、保護者・地域の期待に応え、地域に開かれ信頼される魅力ある学校			*自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 *自己評価の結果は指標等とともに妥当なものであるか。 *自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適当であるか。					
教育目標			評価 ⇒ 4：十分達成 3：概ね達成 2：検討の余地あり 1：不十分					
① 確かな学力の保証・・・基礎学力の定着、学びの質の向上 ② 人間力の保証・・・自主自律の確立、自己肯定感の高揚 ③ 進路の保証・・・探究活動の推進、学外との連携強化 ④ 学びの場の保証・・・信頼される学校づくり								
今年度の重点目標 ※本年度のスローガン「探究活動を学びのエンジンに、自走する生徒育成への挑戦」								
① 教育システム整理とアップデート ② 「カリキュラム・マネジメント」推進(資質・能力を育成する授業と評価の研究) ③ 都西の魅力発信(戦略的な広報活動による入学定員充足) ④ 創立60周年に向けた準備開始(学校の活性化に資する記念行事の立案)								
目標	評価項目	具体的方策または具体的指標	自己評価	学校			評価	学校関係者
				成果○	改善策●	継続議案△		評価・具体的意見
(1) 確かな学力の保証	基礎学力の定着	①面談等を通して個や学年に応じた基礎学力の定着を目指し、意欲的・継続的な学習習慣を身につけさせる。 ②授業を大切にし、意欲的・継続的な学習習慣を軌道に乗せ、学力のさらなる充実と考える力の育成を図る。 ③「都西サポート・学習会・SS等」の効果的な運用を図る。	2.6	①○「プラス1面談」・文理選択の二者面談(1年)を全員に実施し、目的意識の向上に繋げた。また出願時の面談(3年)や進級を意識した面談(2年)も適宜実施。 ②○「授業で勝負」を実践。冬季課外や勉強会(3年)等も実施し、刺激を与える機会を多く持てた。 ○授業の工夫(ICT等も含め)、改善を教科担同士で行った。 ③○講座制によるSS(土曜講座)や放課後の都西サポート(上位者対策・基礎基本。面談や学部研究)など効果的な個に応じた学習の場の提供を行えた。SSは次年度は働き方改革への対応で廃止(予定)。 △課外の希望選択制を受けて今後、自走する生徒の育成や学習時間増加に対する仕掛けがより重要となっている。 ●西高タイム(以前)の質に相当するような組織的なものを働き方も踏まえて検討していく必要がある。	3	①目的意識向上のためにどのような点を重点的に指導されたのか、情報共有した内容が蓄積されていくと指導しやすくなると感じる。 ・面談を通して生徒が自分自身の将来や進路を忌憚なく先生と話せる機会を1年時から行うことは素晴らしい取組である。生徒が目的意識を持って学習することが重要であると思うので適宜面談をすることは大切である。 ②「刺激」や「授業の工夫・改善」について具体的に記載できることがあると分かりやすくなる。 ③生徒だけでなく先生にとっても満足できる改革ができれば良いと思う。質の向上が重要だと思われる。		
	学びの	①「カリキュラム・マネジメント	2.3	①○新課程に向けた観点別評価や新教育課程等を具体的に進め、対応	3	①どのように社会へ開いていくのかについ		

質の向上	<p>ト」研究に基づく学科・類型の特性を活かした「社会に開かれた教育課程」を編成する。</p> <p>②アクティブラーニング型授業やICT機器の活用により、学習の基礎となる資質・能力を育成する。</p> <p>③フロンティア科に新たに設置した2コースの充実を図る。</p>	<p>する準備が整いつつある。</p> <p>△先進校視察によるノウハウの蓄積が必要。</p> <p>②〇タブレットの増数、インターネット環境の整備に伴い、ICTを活用した個に応じた指導体制が整いつつある。</p> <p>△ICTの活用が進んでいる一方、効果的な活用方法の検証、校内研究の機会等が必要となっている。</p> <p>③〇フロンティア科の学校間連携、国際交流の推進。校外コンテストでの受賞UPの実績(台湾修学旅行プロデュース大会・全国プレゼン甲子園、JICAエッセイコンテスト等)</p> <p>△今年度新たに設置した取組であり、今後の生徒の学力推移や進路を追跡調査し実績に繋げていく段階である。</p>	<p>での検討は必要。</p> <p>②コロナ禍の中でICT化が一気に進まざるを得ないが、多様性を模索しながらも是非、頑張っていただければと思う。</p> <p>・先生方のICT活用技術向上等、研修などは開催されているか。今後は誰もがどの教科でもICT活用できることが求められていくと考える。</p> <p>③取組は素晴らしいと思うので、ノウハウを蓄積しながら少しずつ改善できればと考える。</p>
(2) 自主自律の確立 人間力の保証	<p>①基本的な生活習慣の確立を目指す。</p> <p>②自主性の育成に努め、生徒会活動や学校行事の充実を図る。</p> <p>③帰属意識を高め、本校生としての自覚と誇りをもたせる。</p> <p>④生徒の読書活動の推進に努め、読書を通して優れた知性と豊かな心を培い、自己の在り方・生き方を探求する態度を育成する。</p> <p>⑤本校強化推進部・推進生徒の指定も含め、部活動の活性化を図る。</p> <p>⑥ボランティア活動及び地域貢献活動の充実を図る。</p>	<p>2.6</p> <p>①〇コロナ対策をしながら今年度、予定していた行事がほぼ計画通り行えたことは生徒にとって有意義であった。</p> <p>●コロナ禍の対応を受け欠席への抵抗感が低くなっている。</p> <p>②〇生徒会を中心とした校則の見直しを含め、いろいろな場面で、生徒主体の活動ができた。委員会活動を中心とした学年における課題への対応等も行い、成長に繋がった。</p> <p>③〇自立の時間(10分間の朝読書)を上手く活用できた。学年通信を毎週読ませたり、計画的な学年集会を行い、帰属意識が高まった。</p> <p>〇修学旅行を実施できたことの意義は大きかった。</p> <p>④〇ビブリオバトルや読書(自立)を活用して豊かな教育活動を行うことかできた。</p> <p>●「朝の読書」は10分に増えたが、帯としての時間ではなくなり、読書の絶対量が減少した。LHRの活用を検討していく。</p> <p>⑤△規定の見直しを随時行い、共通理解・運用していく。</p> <p>⑥〇ボランティアは常に呼びかけ、意識の向上につなげなかった。全員参加が今後の目標。部活動の未加入者も「PPT」に所属させ、学校のための活動に貢献させた。コロナ禍で縮小された中でも多くの生徒が参加していた。</p> <p>「PPT」・・・校内で行うボランティア活動の組織。</p>	<p>3</p> <p>①②コロナ禍で大変だと思います。まだまだ落ち着いていませんが、コロナが終息したとしても今後、どのような事が起きてしまうか分かりません。コロナ禍での色々な対応は今後の財産になると思います。</p> <p>③毎日のニュースにも意識を向ける余裕を持ち、今、自分が置かれている立場を理解することで、自ずと思慮深くなっていくのではないかと期待している。</p> <p>④読書活動について量だけではなく、その意義について生徒に伝えていく必要性を感じる。</p> <p>⑤評価(継続観察)</p> <p>⑥できることが限られる中で生徒が主体的に取り組む活動は大切であると感じる。</p>
自己肯定感の高揚	<p>①研修体制・教育相談(SCとの連携)の充実を努める。</p> <p>②授業や学校行事等を通して個人の能力を最大限に引き出し、</p>	<p>3</p> <p>①〇教相通信の発行、生徒情報の交換が積極的に行われた。SCとの連携、職員研修の充実が図られた。ケース会を全職員が学べる場になるとさらによくなる。</p> <p>△生徒の多様化により、より積極的な教師支援や保護者の支援が必要</p>	<p>3.3</p> <p>①努力の結果だと思います。継続されることを期待する。</p> <p>②③生徒の多様化は、さらに進むでしょう。生徒・教師・保護者のお互</p>

	主体的・協働的に取り組む人材を育成する。 ③スクール・ミッションに基づく校内体制の準備を進める。		となっている現状が見られる。 ②○葵碧祭において優れたリーダーシップを発揮していた。全学年の参加する行事の意義を改めて感じた。 ○プラス1面談(前掲)を実施し、多くの生徒と職員が交流する場を設けることで、前向きな姿勢を引き出した。 ③○「NP7(仮称)」の設定し次年度への動きが確認できた。 「NP7」…新課程に向けて学校の目指す生徒像を作成したもので、高校時代に身につけてほしい力として7つ挙げている。「思考力・想像力・表現力・行動力・コミュニケーション能力・協働力・自己肯定力」		いの目的意識の認識がより重要になると思う。
(3) 進路の保証	①進路情報の提供を充実させ、自己理解に基づいた進路目標をもたせる。 ②生徒の進路希望を把握し、入試制度改革に関する情報収集・周知に努める。 ③ICTを活用したポートフォリオ作成を効果的に進める。	2.7	①○担当者の尽力に感謝している。大学の学問オンライン講座を希望制により実施した。夢ナビのポートフォリオを時期毎に計画的に実施した。適性検査での自己理解も進路選択に有効であった。 ●体系的な進路学習が不足。総探・ボランティア活動、進路学習が有機的につながるシステム作りが必要。 ●ポートフォリオについては入力止まりで確認・アドバイス等までは実施できていない。 ②○多様化する入試制度に対応するため、時宜に応じた情報提供を行い、スムーズな進路指導につなげていた。 △課外など生徒による選択が増える中、適切な学習指導、進路指導のあり方を考えていく必要がある。 ③○入試制度の説明は計画的に実施した。また、ボランティアやIGIなどポートフォリオの積極的活用を行った。 △全員の小まめな入力が今後の課題。 「IGI」…総合的な探究の時間の名称。	2.6	①将来の夢を明確にすることが進路に向けての具体的な努力が見えてくると思う。今はスマホもあり、インターネットで、自分で調べることもできる時代。そこに、学校、先生方のサポートや仕組みがあり、活かされていればいいと思う。 ②多様化しすぎる入試制度の対応が大変だと思う。生徒・保護者が認識するため、情報提供がより重要になると思う。 ①の改善策と③の成果におけるポートフォリオの記載に矛盾があるように感じる。ポートフォリオは、振り返りが無いと何のための作成なのか不明になり、生徒の意欲になかなかつながらないのではと思う。
学外との連携強化	①フロンティア科に加えて普通科においても探究型学習に関する研究と環境整備に努める。 ②探究活動やボランティア活動に協力をいただく機関・企業・施設等の開拓と連携を図っていく。 ③「G-suite for Education」・「classi」の積極的活用。	3	①○担当者のリーダーシップが発揮され、各取組で意見を出し合いながら改善し実施できている。 ②○三菱みらい育成財団との提携、地元企業と年間を通して探究活動を行う独自の探究プログラム開発に取り組んだ。校内に探究プログラム推進委員会を立ち上げ、組織の整備、宮崎県中小企業家同友会きりしま支部との連携を軸に協働ネットワークを構築。更なる充実を目指す。生徒の活動の様子も職員にもよく見える取組となっている。 ③○Classiの多方面での有効活用ができた。	3.7	①学内では、見ることのできない学外での様子を先生方が知ることができたことは、是非これからの学生との関係の中で活かしていただきたいと思う。 ②各取組とも素晴らしいと思う。 ③評価(継続観察)
(4) 信頼される学	①スクールアイデンティティの再確認を行い、特色ある学校づ	2.6	①○「NP7」を作成し育てたい生徒像の確認ができた。次年度に向けて具体的な取組をしていきたい。	3.3	①評価(継続観察) ②素晴らしい活動だと思ふ。

<p>び の 場 の 保 証</p>	<p>校づく り</p> <p>くりを推進する。 ②美化委員会活動を通して、清掃活動・校内美化・校内緑化の推進を図り、教育環境の充実を図ると共に、ゴミの減量化を徹底する。 ③家庭や地域、関係団体と建設的な関係を築き、「開かれた学校」作りに努め、地域に信頼される学校作りを推進する。 ④職員一人一人が適切な接遇を心がけ、学校のイメージアップに努める。 ⑤防災教育・防災訓練の充実を図る。 ⑥学校運用金の適正利用に努める。</p>	<p>②〇「トイレ清掃ボランティア」(1年)を実施。事前・事後指導を含め円滑に実施でき、心の醸成が図られた。 〇委員会活動を通しての清掃活動及び花壇の整備等、協力して取り組めた。美化活動も計画的に行い、生徒一人ひとりの心の醸成につながった。 ●校内に放置してある不用物品の処分を行ったが、ゴミの分別・減量については更なる意識向上を図ることが必要。清掃が不十分な箇所も見られ、監督者による徹底指導も必要な場面も見られる。 ③〇地元企業と連携して生徒と地域が直接的かつ継続してかかわる場をつくることができたことは学校の目指す生徒像や目標の共有の場作りにつながった。 ④〇コロナ感染症対策で玄関の対応が増えたが、机を設置するなど丁寧な対応ができるようにした。 ⑤〇コロナ禍の中、防災訓練の実施ができた。 ●AEDの実技講習が2年間実施できていない。 ⑥〇予算の適正執行について先生方へ機会ある毎に説明し、事務室においてもチェック体制の強化を図った。 ●携帯・貴重品保管庫の固定の作業が急務である。</p>	<p>学校がきれいになれば、おのずとゴミの減量化になると思う。十分に地域に信頼される学校であると考えている。 ②はSDGsとの関連が大きいと考える。探究活動と日常生活との両方の充実という視点からますます推進されていくことを願う。 ③評価(継続観察 コロナ禍のため) ④評価(継続観察 コロナ禍のため) ⑤評価(継続観察 コロナ禍のため) ⑥評価(継続観察)</p>
<p>戦 略 的 な 情 報 発 信</p>	<p>①本校PR活動における多角的な方策の立案(HPの刷新・制服の変更)を行う。 ②生徒募集及び創立60周年に向け、葵碧会・本校PTAとの連携を図り学校の魅力発信の工夫・改善を図る。</p>	<p>3</p> <p>①〇HPの開発によるコンテンツや機能の向上を図ることができた。さらにHPの独自性を上げるための研究もできた。 〇新制服への変更は大きな課題であったが、丁寧に進め、様々な場面で評価してもらい完成することができた。 〇インスタの毎日更新により、学校の様子を頻繁に学校内外に発信できていた。 ②〇記念式典に向けての準備。同窓会との連携。校門前整備における記念樹等の活用等、60周年に向けた取組を今後は生徒にも広げていきたい。 △生徒募集については各中学校訪問、説明会、オープンスクール、フロンティア科フェスタ、学校CM、中学生に出向いての学習教室、本校での中学生との協働作業、在校生の学校満足度を挙げる工夫、職員による塾訪問等を行っているが、入学希望者は厳しい状況が続いている。今後も上記の取組を継続しながら本校生徒をより全面に出した形での魅力発信に取り組んでいきたい。</p>	<p>3</p> <p>①これからの小・中学生が都城西高に進学したいと思ってもらうためにも現在の西高校生徒が悩みながらも生き生きと学生生活を送っていることが大切だと思う。 ②在校生の学校満足度が生徒募集につながると思う。現状の各取組は素晴らしいと思うので、引き続きお願いしたい。 ・インスタグラムを拝見している。写真がとても魅力的で日々楽しみにしている。大変わかりやすい広報であり、効果的と考える。</p>